古河歴史見聞録

特別陳列
雪の殿さまの愛用した刀・拵

切れ味シャープな固山宗次の刀

企画展「かえってきた堀川國廣」の会期も7日まで。この展覧会における隠されたイチオシ作品は、雪の殿さま土井利位の刀大小とその拵といってよいでしょう。この大小の刀は、天保12(1841)年6月に、古河侯＝古河藩主土井利位の命に応じて作られたもので、作者の固山宗次は、幕末を代表する刀工でした。蛇足ながら、吉田松陰や橋本左内らの処刑人で、公儀の御様御用の七代目山田浅右衛門も、折れず曲がらずによく切れる宗次の刀を用いたとされています。

絶妙な調和で刃文と彫刻が共存するこの刀身は、極めて高い完成度と評すべきものであるといい、発注した利位の美意識を表すものでしょう。この時期の彼は古河城主として、また江戸幕府の本丸老中として国政の中枢で大いにその存在感を発揮しており、この刀身にはそうした矜持が込められているのかもしれません。

刀装具と雪華模様　融合の美

土井利位は、25歳にして古河藩主の養子に迎えられた直後から雪の結晶観察を続け、天保3(1832)年には日本最初の雪の自然科学書となる『雪華図説』、同11年にその続編を刊行します。雪に魅了された古河の殿さまは、やがて30年に及ぶ研究成果から発見した雪華という意匠を、自らの道具や工芸品にデザインとして取り入れていきました。公開中の大小拵は、いわばその集大成として誕生した逸品です。

鐔は、幕末の金工家である後藤一乗の作品。その本家の後藤宗家は、室町・江戸時代を通じて御用達として高い格式を有し、大名・旗本における式正の拵では同家の手掛けた金工品を用いる必要があるとされるほど。分家出身の一乗は、自らの金工技量とその高い芸術性が認められて、天皇や幕府に応じて古格や伝統に縛られぬ自由な発想で刀装具を制作しています。

一乗とその門人たちの手になる雪華文様の鐔は、その斬新な図柄が大いに評判となりました。殊に、利位自ら下絵を提供して発注した陳列の鐔は、雪華を浮き彫り表現するという唯一無二の姿に仕上げられ、流行した雪華文鐔の中でも類例を見ぬものといってよいでしょう。

また、降る雪のような鞘の模様は、舶来の高級品であった梅花皮(エイの皮)に漆をかけて研ぎ出したものです。そこに付属する小柄と笄は大小で作者が異なっており、小の笄・小柄は後藤光美(真乗)の作で、先述のとおり栄えある後藤宗家15代目を嗣いだ人物でした。一方、大の小柄は「乙柳軒味墨」の銘があることから彫金師濱野家の4代目政信によるものと判明。味墨は、当館所蔵で鷹見泉石所用の「雪華文蒔絵印籠」(国重要文化財)の緒締も制作していました。

真鍮の小刀

ところで、国友一貫斎歴史資料という昨年11月新指定の国重要文化財があります。国友一貫斎は、鉄砲鍛冶の家に生まれた技術者で、数々の機器を生み出した発明家でした。その交流人物中に、土井利位や家老の鷹見泉石らの名も確認されています。詳細を述べる暇はありませんが、一貫斎は利位にテレスコップ(反射望遠鏡)等のほか、真鍮小刀も上納したということ。この真鍮小刀は、ながらく記録のほかに存在が確認できなかった珍品でしたが、この拵の付属品として現存することが公開前の調査で判明しました。既存の格式にこだわらず、得心したものを採用するという利位の揺るぎない意思をかいま見るようです。

優品を集めて独創的な美術工芸品を完成させることを願った利位は、武家の象徴である刀に雪華のモチーフをあしらいました。この刀・拵一式の存在は、歴史と文化のまち古河を代表する財産と称するにふさわしいものであり、雪の殿さまと呼ばれる彼にとって満足のいく作品となったことでしょう。

古河歴史博物館学芸員　永用俊彦

図書館の本棚から

【一般書/地理】
しまずかん
こにしけい　著

謎の仮面でお祭りする島、パプアニューギニアからやってきた島、大人の事情でサイボーグ化した島…。日本のおよそ7000もの島の中から、個性的な50の島たちのつぶやきを、豊富なイラストと共に紹介する。

出版社…講談社

【一般書/小説】
夜想交叉路
青山繁晴　著

平成29年12月。古都の没落した家で、祖母が蔵の財産を全て捨てるという行動をとった。日本社会の闇と格闘する日々を重ねてきた祖母の姿を、自らも苦しみのただ中に居る29歳の男子が明らかにしようとし…。

出版社…扶桑社

【児童書/文学】
森のやさしい大工さん
小栗花音　文

自分で初めて巣穴を作ったキツツキのこん太。翌朝、その新しい巣穴に引っ越そうとしたら、すでにリスの親子が住み着いていた。次に、もっと大きくて立派な巣穴を作ったら…。大自然の中での動物たちの暮らしを生き生きと描く。

出版社…文芸社

【絵本】
めくって発見！　えほん
こうじげんばのくるま

ホイールローダー、かにクレーン、フォークリフト、高所作業車…。工事現場で働くくるまたちを、リアルなイラストで描いたしかけ絵本。しかけのマドをめくると、くるまのしくみがわかる。

出版社…永岡書店

ユーセンターKI防水

ファインダー越しの昭和時代
Time Travel Photographer

女の子　昭和32年春

女の子が口にしているのはタケノコの皮で梅干しを包んだもの。包みの角から梅干しの果肉を吸うとタケノコの皮が赤くなるので、その早さを友人と競って遊んだものです。

古河市在住写真家
鈴木路雄さん